

世田谷清掃工場だより

印刷物登録 令和4年度第94号



令和5年(2023年)1月4日

23

発行：東京二十三区清掃一部事務組合 第32号
世田谷清掃工場

〒157-0074 世田谷区大蔵一丁目1番1号
電話 03-3416-5355 FAX 03-3416-5387
見学に関するお問合せ 03-3416-5339 (技術係)

Clean Authority of TOKYO

<https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/kojo/setagaya/index.html>



第31回運営協議会を開催しました



運営協議会の様子

令和4年11月17日(木)の午前10時から第31回運営協議会を当工場で開催しました。前回に引き続き、今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、会場内が密にならないように座席の間隔を広げ、換気を徹底して行いました。

令和4年4月から令和4年9月までの操業状況として、ごみ搬入量や焼却量、発電状況、区民の声対応状況、見学者実績を報告しました。続いて環境調査結果として、排ガス、排水、臭気、ごみ性状、ダイオキシン類の調査結果などを報告しました。

※運営協議会は町会・自治会、マンション管理組合、PTA、世田谷区、当組合で構成され、工場の運営について情報提供や意見交換をしています。

※資料(ごみ搬入量、環境調査結果など)はホームページに掲載しています。

世田谷清掃工場運営協議会

検索

「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。



QRコード

ごみの分別の徹底をお願いします

世田谷清掃工場は可燃ごみの焼却を行っています。この中に金属などの不燃ごみが混じると内部で詰まってしまう、焼却ができなくなってしまいます。

一旦焼却炉を止めて点検、修理して再度稼働できるようになるまでに長期間かかってしまうと、ごみの収集にも影響が出かねません。



焼却炉の内部で詰まった金属類



清掃工場のおにいさん
くみちゃん

不燃ごみは絶対に可燃ごみに混ぜて出さないでください。

また、新聞・雑誌類、ビン・缶・ペットボトルなどは再び使える資源

です。もう一度資源として生かすため、資源の分別にご協力をお願いします。

資源とごみの出し方に関するお問合せ

粗大ごみのお問合せ

世田谷区 清掃・リサイクル部事業課 ☎ 03-6304-3297	世田谷清掃事務所 (世田谷・北沢地域) ☎ 03-3425-3111	玉川清掃事務所 (玉川地域) ☎ 03-3703-2638	砧清掃事務所 (砧・烏山地域) ☎ 03-3290-2151	世田谷区 粗大ごみ受付センター ☎ 03-5715-1133
--	--	-------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

世田谷清掃工場環境フェア2022

令和4年10月23日（日）に世田谷清掃工場環境フェア2022を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため2年間休止していましたが、出展物と配置を見直して再開しました。

特別コースで実施した工場見学では、普段は清掃車が走る構内の道路を歩いて煙突の真下を通ることができ、毎回盛況でした。また、青空の下で実施した自転車のサビとり体験に参加者は興味津々でした。

駐車場のエリアでは、毎週月曜日・水曜日・木曜日に開設される移動式水素ステーションと水素で走る燃料電池自動車を間近で見学することができ、普段なかなか目にすることがない組合せに大人も子どもも大喜びでした。

3階の入口ではブルーベリーとオリーブの苗木を先着順で配布しました。見学者説明室の一部でNPO法人によるエコ工作のほか、食品ロスに関する展示とクイズ、世田谷区によるフードドライブの受付を行い、家庭でのごみ減量について楽しく学んでいただきました。



工場見学の様子

訓練！訓練！ アンモニア水が流出しました



防護服を着用して訓練する様子

清掃工場ではごみの焼却に伴って発生する排ガスや排水を浄化するため、多くの薬品を使用しています。それらが漏れることのないように二重三重の対策をしていますが、それでも万が一の場合に備えて、定期的に訓練を実施しています。

11月の防災訓練は、排ガス処理に用いるアンモニア水が漏れたとの想定で実施しました。訓練では、非常放送の後に外部への模擬通報、アンモニア水の流出を止める操作、防護服を着用した職員が安全な濃度になるまで散水で希釈し、回収するまでの一連の動作を確認しました。

清掃工場では地震災害をはじめとする多様な危機を想定した訓練に力を入れています。もしもの事態に備えて対応力向上を図り、引き続き安全操業に努めていきます。